

牛久のつくばセントラル病院

職員に無料接種

牛久市柏田町のつくばセントラル病院（竹島徹理事長兼院長）で2日、45歳以下の医療法人グループ女性職員457人を対象にした子宮頸がん予防ワクチンの無料接種が始まった。初年度の費用2100万円は全額病院が負担する。同病院によると、病院職員対象の無料接種は仙台市の仙台厚生病院に次いで全国で2番目、県内では初めてという。

子宮頸がんは、ほとんどが性交渉によるウイルス感染で発症する



柏田市の牛久市セントラル病院の接種を受ける看護師

田佳世医師が6月、「職員ががん検診の必要性を認識するきっかけになり、地域への啓発効果も期待できる」と提案し、実現した。ワクチンは来年2月までに計3回接種する。費用は1人当たり約5万円。接種対象者は医師や看護師、事務職員、介護施設職員など。来年度からは新入職員と中途採用職員を対象に実施する。

竹島院長は「無料接種は社会促進の一環。ワクチンとがん検診の両輪で子宮頸がんは予防できる。どちらも普及させていきたい」と話した。（戸島大樹）

県内10市町村が助成

大子町 先陣切り接種開始

子宮頸がん予防ワクチン接種の助成を決定もしくは予定している県内自治体は44市町村のうち、少なくとも10市町村に上ることが3日、茨城新聞社の調べで分かった。同日、大子町は女子中学生対象のワクチン接種を開始し、古河市も実施を発表。牛久市のつくばセントラル病院では45歳以下の女性職員への無料接種を始めるなど、市町村や民間で取り組みが増えている。

（20面に関連記事）



県保健予防課は、ワクチン接種の助成をめぐる市町村の「格差」を懸念し、国の動向を見守っている。「ワクチン接種によってすべからずの感染が防ぎきれないことや、検診の大切さを訴えていきたい」と話した。

県内で本年度中に実施を予定しているのは、スタートした大子町のほか、那珂市、常総市、潮来市、古河市、大洗町、境町、美浦村。来年度実施を予定しているのは、全

大子町では2日、女子中学生215人を対象にした全額助成のワクチン接種が町内の医療機関で始まり、初日は岩佐医院（岩佐秀一院長）で接種した町立西中1年の高村泉さんは「短時間で済み、思っていたほど痛くはなかった」とし、母親の真紀さんは「癌種を検討していた中での無料化だったので、すぐに決めた。副作用の心配はないと聞き、安心して臨めた。これがかんが予防できるのは何より」と話した。

常総市は中学3年生を対象に助成を先決処分決定。このほか那珂市、潮来市、大洗町は9月の市・町議会定例会に補正予算案提出の準備を進めている。

初日に岩佐医院（岩佐秀一院長）で接種した町立西中1年の高村泉さんは「短時間で済み、思っていたほど痛くはなかった」とし、母親の真紀さんは「癌種を検討していた中での無料化だったので、すぐに決めた。副作用の心配はないと聞き、安心して臨めた。これがかんが予防できるのは何より」と話した。

都道府県単位では東京都と山梨県で助成制度を創設している。